

16. 歯根膜腔注射の後継永久歯歯胚に対する影響（第1報）

○野中和明，松本敏秀，中田 稔

（九大・歯・小児歯）

歯根膜腔注射法は、最近一部で臨床応用される傾向にあるが、歯石・歯垢を歯肉溝へ押し込み不潔になりやすく、注入時の強圧で歯根膜の断裂など歯周組織の損傷をきたす可能性もあり、更に乳歯に本法を応用した場合には、先行乳歯に近接した後継永久歯に対する影響も無視できない。そこで今回、幼犬を用いて乳歯に歯根膜腔注射を施した際の、麻酔薬液の後継永久歯歯胚への浸透状態を、組織学的に検索したので結果を報告する。

17. ブリーチングの歯髓に及ぼす影響に関する研究

○後藤讓治（長大・歯・小児歯）

鈴木 信（Western Ontario 大学歯学部）

30%過酸化水素水及び加温による歯牙表面からのVital Bleaching Techniqueは欧米ではしばしば行われている生活歯の漂白方法である。しかし本法の人間歯髓に及ぼす影響に関する報告は本邦においてはみあたらない。そこで、矯正上要抜去と診断された幼若永久歯に対して本法を施した後抜歯し、固定後連続切片標本としてH・E複染色を施した。そして顕微鏡下に観察しコントロールと比較検討し、若干の知見を得たので報告する。

18. 実験的骨粗鬆症に対する食餌療法に関する研究（第1報）

— とくに歯槽骨について —

○住本和隆，木村光孝（九歯大・小児歯）

楊 栄 展（九歯大・歯科放射線）

成長期の組織における栄養障害は、多種多様な所見として現われてくる。歯槽

骨の骨粗鬆症もその一つである。骨粗鬆症については活性型ビタミンD、カルシトニンなどの投与が一般的であり、かなりの効果もあることが報告されている。しかし、栄養障害は栄養摂取の改善がまず先決であると思われる。本実験では、食餌療法による単独治療法における歯槽骨の骨粗鬆状態の検索を行っているので報告する。

19. 再植後に形成された歯根様組織について

○久芳陽一，副島嘉男，本川 渉，吉田 穰（福歯大・小児歯）
谷口邦久（福歯大・口腔病理）

小児歯科臨床において、乳歯や幼若永久歯の外傷を主訴として来院する患者が少ない。従って乳歯あるいは幼若永久歯の陥入あるいは脱落例も多い。このうち、幼若永久歯が完全に脱落した場合には再植術が試みられている。しかし、その予後についてはまだ判然としない点が多い。今回、我々は再植後に歯根様組織の形成された症例に遭遇し、観察する機会を得たのでこれについて報告する。

20. 小児の唾石症 4 例について

○小笠原 靖，中原 世津子，副島嘉男，山田清夫，
吉田 穰（福歯大・小児歯）
谷口邦久（福歯大・口腔病理）

唾石症に関する報告は数多くみられるが、小児の唾石症に関しては比較的報告が少ないようだ。今回、我々は最近経験した小児の唾石症 4 例について、摘出唾石をSEMにより観察したのでその概要を報告する。